



2021 年度 教育開発・学習支援センター一年報

目 次

2021 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター活動報告	1
2021 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告	
教育サポートユニット	4
学習サポートユニット	7
データ活用推進ユニット	9
巻末資料	12

1. 体制

教育開発支援機構長：	児美川孝一郎（キャリアデザイン学部教授）
センター長：	山本兼由（生命科部教授）
教育サポートユニット・リーダー：	酒井理（キャリアデザイン学部教授）（2021年4～9月） 山本兼由（生命科部教授）（2021年10月～2022年3月兼務）
サブリーダー：	秋野喜彦（情報科部教授）
学習サポートユニット・リーダー：	高橋美穂子（経営学部教授）
サブリーダー：	田路則子（経営学部教授）；山田快（経済学部准教授）
データ活用推進ユニット・リーダー：	菅幹雄（経済学部教授）
サブリーダー：	池上宗信（経済学部教授）；北浦康嗣（社会学部教授）
事務局	学務部教育支援課

2. 活動報告

（1）全般にかかわる活動

FD 推進センターと学習環境支援センターから引き継ぎ見直した教育開発・学習支援センター業務リストに基づき、次期中期目標を策定した。法政大学 DX 推進計画を担う DX イニシアティブプロジェクトとの連携を図り、センターが管轄する学習支援システムなどを参入させたデジタルプラットフォーム構築に協力した。また、学位授与単位で設定する DP 情報のデジタル化およびそれらの教員と学生それぞれの活用について検討した。センター活動を PR する体制を整え、センター広報指針にしたがい Web 掲示板、HP、SNS を積極的に活用しながら、その効果を測った。

（2）教育支援にかかわる活動

新しい対面・オンライン教育の支援を念頭に各種取り組みを行った。授業単位の支援として、Web 上での授業改善アンケート集計結果の提供、Web 上での GP 集計情報の提供、新任教員 FD 研修会、専任・兼任教員を対象に3回のオンライン FD 教員セミナー、2回の FD ワークショップ、教員による授業相互参観の確認、派遣学生による授業参観を実施した。カリキュラム単位の支援として、Web 上での学部等別授業改善アンケート集計結果の提供、Web 上での学部等別 GP 集計情報の提供を実施した。全学単位の支援として、学習支援システム運営委員会を運営した。また、現行の学生による授業改善アンケートに対する見直しを行い、次期の学生による授業改善アンケートを設定した。

（3）学習支援にかかわる活動

対面・オンライン学習の支援を念頭に各種取り組みを行った。授業単位の支援として、学習支援ハンドブックの改訂およびオンデマンドコンテンツ化、博士後期課程生に提供するプレ FD の検討を行った。カリキュラム単位の支援として、授業形態に関する学生対象アンケートを実施し、学修・学習における対面・オンライン学習の支援を検討した。全学単位の支援として、ピアネット運営委員会による全学的正課外学習支援および合同研修会実施、学習ステーション L ステゼミへの 10 回講座提供とともに、学習環境改善検討委員会の運営も行った。

3. 各ユニットの活動

（1）教育サポートユニット

- ・教員向けオンライン FD セミナーの企画・開催

第 1 回 FD 教員セミナー（7 月 30 日 17:30～20:00）

【巻末資料 1】

「感染リスク下での対面授業運営の課題・対処方法を情報共有する教員ミーティング」

第 2 回 FD 教員セミナー（11 月 24 日 17:30～18:30）

【巻末資料 2】

「剽窃チェックソフト（Turnitin）の利用方法について」LF センター事務局／Turnitin 社

第 3 回 FD 教員セミナー（3 月 3 日 18:00～20:00）

【巻末資料 3】

「ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する」帝京大学教授 木村友久氏

- 「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫」経営学部教授 川島健司氏／法学部教授 植木紀子氏
- 職員向け FD ワークショップの企画・開催

第 22 回 FD ワークショップ (9 月 3 日 12:40～16:00)

[巻末資料 4]

「DX 化する教育活動を支援していくために

～実行可能な業務改善と、新たな DX ツールを活用した業務改革に向けて～

「HOSEI Hi-DX による個別最適化された学び

～法政モデルの実践」LF センター長 山本兼由氏

「教育支援本部プロジェクト “All Campus 全体最適化会議”の取り組みについて

～各プロジェクトからの現状報告」

「いまさら聞けない RPA のキホン

～大学における RPA の成功事例・失敗事例」(株) エデュース

「業務を遂行するための法令及び学内ルールの遵守について

～予備費・予算流用、労働時間についてを中心に」LF センター事務局

第 23 回 FD ワークショップ (9 月 22 日 18:00～19:30)

[巻末資料 5]

「法政大学 MDAP および DSC 開設記念イベント

～数理・データサイエンス・AI 教育が目指す社会とのつながり～

法政大学における数理・データサイエンス・AI 教育の導入に向けて」

「基調講演 1 DX がもたらす社会イノベーションと取組み事例」(株) 日立製作所 佐藤達広氏

「基調講演 2 文理融合とデータ活用したストーリーを作ることの重要性」楽天 (株) 戸田雅子氏

- FD 教員研修を企画し、2 学部 (生命科学部・キャリアデザイン部) で実施

実施内容: FD 活動、オンデマンドツール、授業サポートツール

- GPA 活用の方策に関する検討に向けて、GPCA 集計データセットを作成し、分析した。

- 「授業リフレクションのための学生による授業参観」を企画し、研修修了学生 90 名で 14 授業で実施

- 会議など

教育サポートユニット会議 4 回 (5/6・6/28・8/31・11/8)

+事業進捗状況に応じて、Slack により適宜情報共有・会議を実施

(2) 学習サポートユニット

- ピアネット運営委員会に関わる活動

全学的正課外学習支援

2021 年度ピアネット学生スタッフ合同研修会 (12 月 4 日 13:00～15:30)

「ピアネット、ピアサポートとは」教育支援本部統括本部長 菊池克仁氏

「ピアネット活動における私にとっての“自由を生き抜く実践知”」総長講演／ワーク／発表

ピアネット・コンピテンシーテストの改修とその実施

- 「学習支援ハンドブック」の改訂 (オンライン授業に関して追加) / 一部コンテンツオンデマンド化

- 学習ステーション L ステゼミに 8 回の講座提供

「レポート作成の“基本の基本”を学ぼう！」社会学部准教授 多田和美氏 (7 月 9 日実施)

「大学図書館を有効活用！～レポート・論文資料の探し方～」図書館職員 森川愛子氏 (7 月 12 日実施)

「地域と祭りの社会学」社会学部教授 武田俊輔氏 (10 月 7 日実施)

「英語はどここの国の言語？」グローバル教養学部教授 渡辺宥泰氏 (10 月 14 日実施)

「植民地・まなざし・言語

～20 世紀フランス語圏の思想と文学から～」人間環境学部教授 竹本研史氏 (10 月 20 日実施)

「シリコンバレーの起業家活動の最前線」経営部教授 田路則子氏 (10 月 26 日実施)

「視覚的に英語を読む」文学部専任講師 田中裕希氏 (11 月 1 日実施)

「コーチングについて学びましょう：スポーツの視点から」経済学部准教授 山田快氏 (11 月 10 日実施)

「人工知能 (深層学習) 超入門」理工学部教授 彌富仁氏 (11 月 16 日実施)

「能楽研究所って知ってる？—法政大学のお宝案内—」

野上記念法政大学能楽研究所所長 山中玲子氏 (11 月 24 日実施)

- 「学習環境改善検討委員会」をセンター長との協働で 2 回実施 (8 月 4 日 / 3 月 11 日)

- プレ FD に関する検討

- 会議など

学習サポートユニット会議 3回 (5/6・7/14・1/27)
学習ステーション運営委員会 6回 (4/8・6/10・9/9・11/11・1/13・3/10)
ピアネット運営委員会 7回 (4/15・6/17・9/16・10/21・11/18・1/20・3/17)
学習支援システム運営委員会 2回 (8/3・3/15)

(3) データ活用推進ユニット

- ・「学生による授業改善アンケート」の企画・分析・報告書作成 (大学評価室と協働)
2021年度春学期「学生による授業改善アンケート」の企画・実施
2021年度秋学期「学生による授業改善アンケート」の企画・実施
2020年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書の作成・公表
2022年度以降の次期「学生による授業改善アンケート」の企画
- ・オンライン授業についてのアンケート調査の企画・実施・報告書作成 (大学評価室と協働)
調査目的：春学期に実施したオンライン授業について、学生がどのように学習に取り組んできたのか、どのよ
うな点に問題を感じているか、授業に対する理解度・満足度等を把握し、今後の教育改善や学習支
援に活かすことを目的とする。
調査期間：2021年7月19日～7月31日
調査対象：全学部生・大学院生 (通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む)
実施方法：Google フォーム
回答数 : 3,516名
- ・正課・正課外を含む学習成果の可視化のための GPA と DP を連携させるなど DP 利用の国内調査
- ・会議など
データ活用推進ユニット会議 7回 (4/30・5/18・6/7・7/9・10/1・11/12・12/21)
+事業進捗状況に応じて、メーリングリストにより適宜情報共有・会議を実施

4. 学内会議

- (1) 教育開発支援機構企画委員会 10回 (4/22・5/13・7/1・9/23・10/21・11/25・12/23・1/20・2/22・3/10)
- (2) ユニット・リーダー会議 10回 (4/13・5/11・6/15・7/13・9/7・10/5・11/2・12/7・1/18・3/8)

5. 所属学会・参加団体・外部対応

- (1) 大学教育学会：団体会員
- (2) 初年次教育学会：機関会員
- (3) 日本リメディアル教育学会：賛助会員
- (4) 全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPF : Japan Private Universities FD Coalition Forum)
(38 大学加盟)：幹事校
幹事会・総会 (6/19)、幹事校・会員校ミーティング (1/28)
- (5) 関東圏 FD 連絡会 (青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学)
連絡会 (7/5・12/13)

6. その他

学外セミナー参加

大学コンソーシアム京都「第 27 回 FD フォーラム」(2/19・20・26・27)：教職員 3 名

以上

2021年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告

<教育サポートユニット>

I. 2021年度活動計画（2021年5月13日の教育開発支援機構企画委員会で報告された内容）

1. 活動目的

オンライン授業に対する教育支援、ミドル・レベル（学部・学科単位）でのFD活動の支援、GPA活用の方策に関する検討等

2. 活動計画

(1) オンライン授業に対する教育支援【重点項目】

a オンラインFD教員セミナー

- ・3回実施（うち1回をワークショップ形式で開催）
- ・昨年度テーマ：授業における著作権、インストラクショナルデザイン
- ・今年度テーマ：今後ユニット内で検討

b Newsletterの発行

- ・6回発行
- 3回はセミナーに関する情報発信
- Turnitin、学習支援システム関連テーマで2回
- 授業リフレクションの学生のための授業参観関係で1回

(2) ミドル・レベル（学部・学科単位）でのFD活動の支援【重点項目】

a 学部などへの個別FD活動支援

- ・2020年度の実績を踏まえ、春学期、秋学期で希望を募り実施する。
- ・2020年度は2学部実施→2021年度も2学部目標
- ・テーマ
オンライン授業における著作権の取り扱い
Turnitin、学習支援システムのインストラクション

b 学生モニター制度の活性化

- ・2020年度に名称変更：授業リフレクションの学生のための授業参観
2020年度で3名の応募実績
兼任のニーズにより応える工夫

(3) GPA活用の方策に関する検討【重点項目】

a GPCA年度集計の分析

- ・ユニット内のワーキングで分析

b ユニット内で活用方法の検討

- ・学習成果としての GPA 活用
- ・教育成果としての GPCA 活用

(4) その他

a 年次報告書の作成

- ・粛々と掲載情報を収集・蓄積して作成する (3月発行)

b SNS を活用したオンライン授業支援

- ・学習支援システム説明動画の配信

3. ユニット・メンバー (五十音順、*: ユニット・リーダー、**: ユニット・サブリーダー)

**秋野喜彦 (情報科学部) / 石坂恒太 (学務部教育支援課[事務局]) (～2021年5月31日) / 植木紀子 (法学部) / *酒井 理 (キャリアデザイン学部) (～2021年9月30日) / 末武康弘 (現代福祉学部) / 中村有貴 (大学院事務部大学院課) / 鍋田純子 (学務部教育支援課[事務局]) (2021年6月1日～) / 根橋 巧 (学務部教育支援課) / *山本兼由 (生命科学部) (2021年10月1日～)

II. 2021年度活動実績 (報告)

1. オンライン授業に対する教育支援

①オンラインFD教員セミナー: 3回実施

- (1) 2021年度第1回FD教員セミナー (Zoomによるオンラインでの実施)

[巻末資料 1]

開催日時: 2021年7月30日 (金) 18:30～20:00

テーマ: 感染リスク下での対面授業運営の課題・対処方法を情報共有する教員ミーティング

参加者数: 66名

- (2) 2021年度第2回FD教員セミナー

[巻末資料 2]

開催日時: 2021年11月24日 (水) 17:30～18:30

テーマ: 剽窃チェックソフト (Turnitin) の利用方法について

参加者数: 62名

- (3) 2020年度第3回FD教員セミナー

[巻末資料 3]

開催日時: 2022年3月3日 (木) 18:00～20:00

テーマ: ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する

学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫

参加者数: 109名

②Newsletterの発行: 4号発行

名称: LFセンターNews Letter

発行: 2021年度1号 (9/21); 2号 (10/15); 3号 (12/8); 4号 (3/8)

2. ミドル・レベル (学部・学科単位) でのFD活動の支援

①学部などへの個別 FD 活動支援：2回実施

(1) 生命科学部教授会による研修

実施日時：2021年7月30日（金）16:30～17:00

テーマ：FD活動、オンデマンドツール、授業サポートツール

参加者数：43名

(2) キャリアデザイン学部教授会による研修

実施日時：2021年11月26日（金）15:00～15:30

テーマ：FD活動、オンデマンドツール、授業サポートツール

参加者数：27名

②授業リフレクションのための学生による授業参観（旧学生モニター制度）の活性化

[巻末資料 6]

実施期間：2021年10月25日（月）～2022年1月18日（火）

参加学生：申込者131名；研修修了者70名；派遣者41名（のべ数）

申し込み授業数：14授業（教員12名）

③その他

(1) 第22回FDワークショップ（Zoomによるオンラインでの実施）

[巻末資料 4]

開催日時：2021年9月3日（金）12:40～16:10

テーマ：DX化する教育活動を支援していくために

参加者数：86名

(2) 第23回FDワークショップ（オンラインでの実施）

[巻末資料 5]

開催日時：2021年9月22日（水）18:00～19:30

テーマ：法政大学MDAPおよびDSC開設記念イベント

参加者数：196名

(3) 授業支援ボックス（リアクションペーパー読み取り機）について

内容：2021年度末で運用終了

理由：機器の販売停止、保守終了、オンライン化による需要の大幅減少

(4) シラバス作成ガイドラインの改訂

内容：英語概要欄の充実、各回の授業形態予定の記載

理由：多様なメディア利用の単位制限遵守への対応、SGU事業の中間評価結果への対応

3. GPA活用の方策に関する検討

①GPCA年度集計の分析

GPCA等を分析するために、これまでのデータを整理した。

②ユニット内で活用方法の検討

評価の分布分析に向けて上記①を活用し検討する準備をした。

4. その他

①年次報告書の作成

「2020 年度教育開発・学習支援センター年報」を編集し、発行した。

②SNS を活用したオンライン授業支援

本学オンデマンドシステムで（教育向け）学習支援システム利用ガイダンスの動画を充実させた。

以上

<学習サポートユニット>

I. 2021 年度活動計画（2021 年 5 月 13 日の教育開発支援機構企画委員会で報告された内容）

1. 活動目的

学習支援ハンドブックを活用した学習支援（学習ステーション運営委員会）、ピアネットを中心とした課外教養プログラムの充実、ピアネットの有機的な運営の検討、ピアネット・コンピテンシーテストの実施（ピアネット運営委員会）、対面・オンライン授業が共存する学内学習環境の整備（学習環境改善検討委員会の運営）

2. 活動計画

（1）学習ステーション「L ステゼミ」の実施

- 学習支援ハンドブックの内容と連動した「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供するテーマをオンラインで提供
- 担当者の許可が得られた場合は録画を行い、L ステゼミ終了後 1 週間程度は動画を視聴できるようにする

（2）学習支援ハンドブックの加筆修正

- 2021 年度版の修正を行うとともに、必要と思われる場合は加筆し、内容の充実を図る

（3）学習支援ハンドブックの利用促進

- 学習支援ハンドブックの内容と連動した L ステゼミの実施→（1）と連動
- 学習支援ハンドブックの活用方法と LF センターウェブ上で公開しているオンデマンドコンテンツの紹介

（4）ピアネット合同研修会、ピアネット所属ユニットの協同プログラムの実施

- 対面での実施が難しい場合はオンラインでの実施を検討

（5）ピアネット・コンピテンシーテストの実施と分析

- ピアネット活動の減少に伴いサンプル数も激減しているため、個人単位や少人数でも分析ができる

よう、外部試験導入等も視野に入れた実施を検討

(6) 学習環境改善検討委員会の運営

- 対面とオンライン授業が共存する状況での学習環境の支援と整備

(7) 新入生サポートプログラムの対面とオンラインでの実施

- 昨年度はオンラインで実施した新入生サポートを対面とオンラインで実施

3. ユニット・メンバー（五十音順、*ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

安藤光平（学務部教育支援課[事務局]）／飯塚朋子（リカレント・通信教育センター事務局）／
彌富 仁（理工学部）／*高橋美穂子（経営学部）／竹内晶子（国際文化学部）／武田俊輔（社会学部）
／竹本研史（人間環境学部）／**田路則子（経営学部）／田中裕希（文学部）／**山田 快（経済学部）
／渡辺宥泰（GIS）

II. 2021 年度活動実績（報告）

1. 学習ステーション「Lステゼミ」の実施

[巻末資料 7]

Lステゼミに 10 回の講座提供を行った（タイトル・概要・担当者・実施日は資料 1 を参照）。一部の講座は録画し、振り返り配信を実施した。

2. 学習支援ハンドブックの加筆修正

[巻末資料 8]

学習支援ハンドブックにオンライン授業受講のルールとマナーに関する内容を追加し、その他軽微な修正を行った。

3. 学習支援ハンドブックの利用促進

学習支援ハンドブックの内容と連動した Lステゼミを春学期に実施した。また、剽窃チェックソフトに関する案内を Web 掲示板で掲示する際に、学習支援ハンドブックに先行研究の引用方法やレポートの書き方についての記載があることを周知し、関連ページへのリンクを学生に掲示した（掲示内容は資料 2 を参照）。

4. ピアネット合同研修会、ピアネット所属ユニットの協同プログラムの実施

2021 年度ピアネット学生スタッフ合同研修会をオンラインで実施した。第 1 部は、所属団体のみならずピアネットへの帰属意識も高めることを目的として「ピアネット、ピアサポート」についての講演、第

2部はグループに分かれて所属団体の活動を振り返るワークを行った（詳細は資料3, 資料4を参照）。

5. ピアネット・コンピテンシーテストの実施と分析

外部試験導入検討のため、学習ステーション学生スタッフを対象に「PSA (Personality Spectrum Analysis)」のテスト受験を行い、その結果分析をピアネット運営委員会指名委員とともに行った。分析結果により、テストの信頼性・妥当性が確認できたら、2022年度以降の正式導入に向けてピアネット運営委員会で引き続き検討する予定となった。

6. 学習環境改善検討委員会の運営

8月4日に学習環境改善検討委員会を開催し、コロナ禍で多様な授業形態が混在していることに伴って発生している学習環境の課題について意見交換を行った。3月11日に第2回を開催し、2021年度1年間の振り返りと2022年度に向けた諸課題の洗い出し等を実施した。

7. 新入生サポートプログラムの対面とオンラインでの実施

2021年度新入生サポートプログラムを4/1（木）から9（金）まで対面およびオンラインで実施した。参加新入生数は対面563名、オンライン82名、新入生サポーター数は41名であった（詳細は資料5を参照）。

以上

<データ活用推進ユニット>

I. 2021年度活動計画（2021年5月13日の教育開発支援機構企画委員会で報告された内容）

1. 活動目的

「学生による授業改善アンケート」の企画・分析・報告書作成、オンライン授業におけるアンケート調査の企画・分析・報告書作成、正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討、GPAとDPを連携させた分析・検討。

2. 活動計画

- （1）「学生による授業改善アンケート」の企画・分析・報告書作成
- ・2022年度春学期および秋学期の「学生による授業改善アンケート」の企画を行う。
- ・昨年度秋学期の「学生による授業改善アンケート」の分析・報告書作成を行う。

(2) オンライン授業についてのアンケート調査の企画・分析・報告書作成
・昨年度に引き続き、春学期（秋学期）のオンライン授業についてのアンケート調査の企画・分析・報告書作成を行う。

(3) 正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討
・昨年度、黒川メンバーが行ったサーベイを引き継ぐ。
・どのような学習成果の可視化の事例があるのか、他大学などの事例を調べる。

(4) GPA と DP を連携させた分析を検討する。
・2019年に実施した GPA と DP を連携させた分析を検討し、今後の発展を探る。

3. ユニット・メンバー（五十音順、*ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

池上宗信（経済学部）／石毛満悠（学務部教育支援課[事務局]）（～2021年5月31日）／岩田裕美（学務部教育支援課[事務局]）／北浦康嗣（社会学部）／*菅幹雄（経済学部）／曾和義幸（生命科学部）／松本雄大（総長室大学評価室 IR 担当）／宮崎純佳（学務部教育支援課[事務局]）（2021年6月1日～）／森山祐紀（総長室大学評価室 IR 担当）／山本佳士（デザイン工学部）

II. 2021年度活動実績（報告）

1. 『2020年度学生による授業改善アンケート全学集計結果報告書』の作成 [巻末資料 9]

・ユニット・メンバーが『2020年度授業改善アンケート全学集計結果報告書』を作成した。
・同報告書（学部・大学院）は第5回 データ活用推進ユニット会議（2021年10月1日）に報告、承認された。
・同報告書（学部及び大学院）は第5回ユニット・リーダー会議（2021年9月7日）に報告、承認された。
・ユニット・リーダー会議承認後、第9回学部長会議（2021年9月16日）で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

2. 2021年度春学期 授業形態に関する学生対象アンケートの実施・分析・報告 [巻末資料 10]

・ユニットでアンケート調査票を検討・作成し、調査票案は第3回 データ活用推進ユニット会議（2021年6月7日）で承認された。
・同調査票は第3回ユニット・リーダー会議（2021年6月15日）で承認された。その後、第3回教育開発支援機構企画委員会（2021年7月1日）にて寄せられた意見を反映の上、第7回学部長会議（2021年7月8日）に報告、承認された。
・アンケート調査は2021年7月19日（月）～7月30日（金）、に、全学部生・大学院生（通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む）を対象として実施された。実施方法は、Google フォームで実

施するものであり、Web 掲示板にフォームへのリンクを掲載し、通知により回答を依頼した。

・調査実施後、教育開発・学習支援センター内で集計を行ったものを、総長室付大学評価室 [IR 担当] が分析して『2021 年度「春学期授業形態別アンケート」集計結果報告書』にまとめ、第 5 回データ活用推進ユニット会議（2021 年 10 月 1 日）で検討、修正の上、承認を得た。

・同報告書は第 6 回ユニット・リーダー会議（2021 年 10 月 5 日）で報告、承認された。

・ユニット・リーダー会議承認後、第 11 回学部長会議（2021 年 10 月 14 日）で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

3. 2021 年度「学生による授業改善アンケート」の実施

・2021 年度「学生による授業改善アンケート」を春・秋学期に実施した。

<実施方法>

実施期間に授業改善アンケートシステム (Web) より回答 (所要時間: 5~10 分)

<実施期間> 【通学課程】

春学期前半 (デザイン工学部・デザイン工学研究科・市ヶ谷文系研究科): 2021 年 5 月 19 日 (水) ~6 月 8 日 (火)

春学期期末 (全学部・研究科): 2021 年 6 月 30 日 (水) ~8 月 3 日 (火)

秋学期前半 (デザイン工学部・デザイン工学研究科・市ヶ谷文系研究科): 2021 年 10 月 26 日 (火) ~11 月 15 日 (月)

秋学期期末 (全学部・研究科): 2021 年 12 月 8 日 (水) ~2022 年 2 月 8 日 (火)

【通信教育課程】

オンライン 5 月週末スクーリング: 2021 年 5 月 24 日 (月) ~6 月 14 日 (月)

オンライン 6 月週末スクーリング: 2021 年 6 月 21 日 (月) ~7 月 12 日 (月)

春期スクーリング・前期メディアスクーリング: 2021 年 6 月 30 日 (水) ~8 月 3 日 (火)

夏期スクーリング: 2021 年 7 月 29 日 (木) ~8 月 16 日 (月)

オンライン 10 月週末スクーリング: 2021 年 10 月 11 日 (月) ~11 月 1 日 (月)

オンライン 11 月週末スクーリング: 2021 年 11 月 22 日 (月) ~12 月 13 日 (月)

秋期スクーリング・後期メディアスクーリング: 2021 年 12 月 8 日 (水) ~2022 年 2 月 8 日 (火)

冬期スクーリング: 2022 年 1 月 20 日 (木) ~2 月 8 日 (火)

4. 次期「学生による授業改善アンケート」の調査票および集計表を検討

・第 7 回データ活用推進ユニット会議 (2021 年 12 月 21 日) において、次期「学生による授業改善アンケート」の調査票および集計表の検討がなされ、修正の上、承認された。

・次期調査票および集計表は、第 9 回 LF ユニット・リーダー会議 (2022 年 1 月 18 日) において報告された。

以上

3 第3回 FD 教員セミナー

「授業目的公衆送信制度の理解・学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫」
(2022年3月3日)

2021年度第3回FD教員セミナー FD

日時 2022年3月3日(木)
18時～20時(予定)

方法 Zoomによるオンライン開催
※録画による後日配信は行いません

対象 本学教員(専任教員・兼任講師)

定員 なし

第一部では、授業での資料等の活用に活かせるよう、授業目的公衆送信制度・著作権等に関する皆さまのご質問に回答する形式とします。事前にご質問・お悩み等をお寄せください。
第二部では、学生が選ぶベストティーチャーに、授業運営の工夫を紹介いたします。奮ってご参加ください。

プログラム(予定)

18:00 開会挨拶

18:05 **【第一部】ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する**
事前に質問を募集し、それらにお答えします。
講演者：木村 友久(南京大学共通教育センター センター長・教授)

19:10 **【第二部】学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫**
講演者：川島 健司(経営学部教授) 2020/2021年度受賞
橋本 紀子(法学部教授) 2020/2021年度受賞

19:55 閉会挨拶

右記のQRコードから、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。合わせて第一部へのご質問をご入力ください。
(URL: <https://forms.gle/kv1RFD98mCv51u57>)

申込締切: 2022年2月28日(月)
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(L@hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報保護法に基づき、本イベント以外の目的で使用いたしません。

参加申込み方法

主催: 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-Mail: kyoiku@hosei.ac.jp

4.3 授業動画の制作と配信 (Zoomで制作, YouTubeで配信)

- 動画の使い回しはしない。
- 動画配信を授業の目的にしない。
- YouTubeの概要欄に内容別に時間割を表示する。
- 字幕が付けれられる。速度を遅くして視聴できる等の利便性からYouTubeを利用。

4 第22回 FD ワークショップ

「DX化する教育活動を支援していくために
～実行可能な業務改善と、新たなDXツールを活用した業務改革に向けて～」(2021年9月3日)

FD 法政大学第22回FDワークショップ

DX化する教育活動を支援していくために
～実行可能な業務改善と、新たなDXツールを活用した業務改革に向けて～

新型コロナウイルスの影響で、私たちの生活・働き方は急激に変化し、大学を取り巻く環境も例外なく大きく変化しました。そのような中、本学では文部科学省による大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)「デジタルを活用した大学・高等教育高度化プラン」に採択され、コロナ禍で急激に進捗してきた教育のデジタル化を、より高度なデジタル技術で大きく発展させ、従来の教育を超えるエクスペリエンスを提供すると同時に、多様な学生と教職員の織りなす教育活動を支援していかなければなりません。本ワークショップでは、採択された事業「HOSEI HI-DXによる個別最適化された学び」の内容を理解し、実行可能な業務改善と、新たなDXツールを活用した業務改革について考える機会としたいと思います。

プログラム(予定)

【第一部】FDワークショップ

12:40 開会挨拶

12:45 講演1
HOSEI HI-DXによる個別最適化された学び
～法政モデルの実践
山本 崇由
(教育開発・学習支援センター長、生命科学部教授)

【第二部】学務部職員研修

13:15 報告
教育支援本部プロジェクト
「All Campus全体最適化会議」の取り組みについて
～各プロジェクトから現状報告

14:15 講演2・グループワーク
いまさら聞けないRPAのキホン
～大学におけるRPAの成功事例・失敗事例
株式会社エデュース
(学校経営・運用に特化したコンサルティング会社)

15:20 講演3
業務を進行するための法令及び学内ルールの遵守について
～予備費・予算運用、労働時間についてを中心に

16:00 講師・開会挨拶

日時 2021年9月3日(金)
12時40分～16時

会場 法政大学江谷キャンパス
スカイホール(休アナード・トップ2階)
※参加には事前の申請と参加費の支払いが必要です

対象 法政大学教職員
※学務部専任教員は参加必須
千代田区キャンパス教職員

【参加申込方法】
以下のQRコードから、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
※本学教職員で学部5以外の方は申込前に必ず所属長より許可を得てください。お申込みください。

URL: <https://forms.gle/3119F68b37N72328>
申込締切: 2021年8月27日(金)

※個人情報保護法に基づき、本イベント以外の目的で使用いたしません。

お問い合わせ 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター/学務部
TEL: 03-3264-9040 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

「学修」を両面サポートするDX

学生

個別の学習・学修振り返り

学修支援・カリキュラム改革
大学・学部

©2021 Center for Learning Support and Faculty Development, Hosei University

5 第23回FDワークショップ

「数理・データサイエンス・AI教育が目指す社会とのつながり」(2021年9月22日)

法政大学 数理・データサイエンス・AI プログラム(MDAP) データサイエンスセンター

MDAPについての詳細はこちらから

開設記念イベント

開催日時: 2021年9月22日(水) 18:00~

開催方法: オンライン/Zoom

対象: 本学学生・教職員、一般の方

締切: 2021年9月20日(月)

お申込みはこちらをクリック!
※Googleアカウントでログイン

お申込み頂いた方に当日のイベントURLをE-mailにてお送り致します。
上記リンクにて実行しない場合は下記URLよりお申込み下さい

<https://forms.gle/8AUXEM42Aa2G5tR8>

主催/法政大学総長室付教学企画室
共催/法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
【第23回FDワークショップ】

- ### ■プログラム
- 1) 開会挨拶 (小教元副学長・常務理事/5分)
 - 2) 科目及びセンター設置の目的と紹介 (廣津委員・前設置準備委員会委員長/5分)
 - 3) 基調講演 1 (株式会社日立製作所 佐藤 達広/30分)
 - 4) 基調講演 2 (楽天株式会社 戸田 雅子・本学卒業生/30分)
 - 5) 質疑応答 (15分)
 - 6) 閉会挨拶 (中山常務理事・総長室付教学企画室長/5分)

基調講演 1 『DXがもたらす社会イノベーションと取組み事例』

HITACHI 株式会社 日立製作所 佐藤 達広
Inspire the Next Lunada Data Science Lab シニア・データサイエンス・エキスパート



1971年大阪府生まれ、福島県会津若松市で育つ。1995年に日立製作所へ入社し、以来23年間、研究所において、数理最適化を応用したダイヤや物流の配送計画などを作る計画最適化モデルの研究開発に従事。その後、事業部門へ異動し、データサイエンスの専門職としてAIを活用したソリューションビジネスを担いつつ、大学で教鞭をとられ、また社内においては若手社員の育成にも注力している。博士(工学)。電気学会上級会員、日本オペレーションズリサーチ学会、電気学会電気学術振興賞論文賞、情報処理学会業績賞受賞。

基調講演 2 『文理融合とデータ活用したストーリーを作ることの重要性』

Rakuten 楽天株式会社 戸田 雅子
楽天モバイル本社総務部 広報ネットワーク事業部長



本学キャリアデザイン学部卒業。2014年楽天株式会社に入社。「楽天市場」のECコンサルタントとしてキャリアをスタート。担当店舗の流通を引き上げ、広告施策などの積極的提案が評価され社員賞である「楽天アワード」を4度受賞。入社後1年で最年少サプリーダーに就任。その後、モバイル事業に異動し10名で基地局設置の立ち上げを経験。ガイアの夜明け(テレビ東京)にも出演し、現在は最年少事業室長として4部署の担当と数百名の部下と共に楽天モバイル事業の対外的な交渉や伝送ネットワークの構築を務めている。

問い合わせ: 法政大学総長室付教学企画室
E-mail: kyogaku@hosei.ac.jp

6 授業リフレクションのための学生による授業参観

2021年度秋学期

学生募集 授業リフレクションのための学生による授業参観

教育開発・学習支援センターでは、学生と教員が共に授業をより良くすることを目的に、**学生による授業参観の参加者を募集**します。

学生は受講者としてだけでなく、教員でも受講者でもない第三者の立場として**授業参観**をしていただき、授業に関与していただく点を、参観にフィードバックしていただきます。

【授業リフレクションのための学生による授業参観とは】
学生視点の意見を取り入れ、授業改善に活かすための制度です。事前研修を受けたいた学生により、**授業参観**を行います。授業の「方等(話し方、教書方法等)において、受け手が教員にフィードバックします。参観は、半年からのフィードバックを受けて得た気づき、今後の授業改善に役立ちます。

【応募条件】以下のすべてを満たすこと
1. 法政大学に在学中の学部2・3年生
2. 企業の本職に就労し、専攻科に在籍のある教員を募集できる方
3. 事前研修に必ず参加すること
事前研修日程: 10月9日(土)13:00~14:30 ※Zoomにて実施(録画の配信はありません)

【授業参観の実施期間】
2021年10月25日(月)~2022年1月18日(火)
※上記期間のうち任意の担当授業1コマ(複数回担当も可能です)

【実施までの流れ】
事前研修(90分) → 担当教員と事前打ち合わせ → 授業参観(100分) → 教員へのフィードバック
※ 授業スケジュールとのマッチングが成り立たない場合は、授業への参観が出来ません。参観された方には、謝礼として5,000円分のクオカードをお贈りいたします。

【申込方法】
下記よりお申し込みください。(法政大学gmailへのログインが必要です)
<https://forms.gle/12hdaVxvXovG2o26>
申込期限: 2021年10月11日(金)12:00まで

お問い合わせ:
法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター (事務局: 学務部教育支援課)
TEL: 03-3264-9040 E-mail: kyokaku@hosei.ac.jp

専任教員・兼任講師の皆さまへ

2021年度秋学期 授業リフレクションのための学生による授業参観

学生の視点からの意見を取り入れ、教員の授業や教育方法の改善に活かすための制度です。自身のオンライン授業の振り返り・改善等に向けても活用できます。

- ✔ 授業改善に関心の高い学生を募集し、事前研修を実施
- ✔ 複数の学生(転学生以外)を選定し、教員と事前打ち合わせを実施
- ✔ 所定のチェックシートに基づき、学生は受講者と異なる視点から客観的に授業を参観し、授業の進め方(話し方、教書方法等)をチェック(専門的な内容を除く)
- ✔ 学生から該当授業担当教員のみへ建設的なフィードバックを行う(フィードバックの内容を第三者が見ることはありません)
- ✔ 録画したZoom等でのオンライン授業について、本制度を活用することも可能
- ✔ 純粋な学生の意見を聞くチャンス(学生から評価されるわけではありません)

～前年度チェックシート～ ※今後変更の可能性が有ります

～以前に利用した先生方の声～
参観の打ち合わせからフィードバックまで、学生の視点から学べました。学生には謝礼(クオカード)が支払われるので、本当にメリットがあるところも感じます！また利用させてもいます！

「学生に評価される」と感じました。教員が授業の悩みや迷いについて相談に乗ってくれて、様々なアイデアも教えていただきました。学生からのフィードバックの情報は、有難かったです！

実施の流れ
1. 参観予定の授業について、3日のフォームより研修申し込みをいたします。
2. 事前研修(90分)に参加し、参観の予定を決定いたします。
3. 学生は事前に参観方法や打ち合わせを行います。1コマの参観も可能です。
4. 授業参観後、参観した学生は半年間(前年度)参観フィードバックを行います。

募集及び実施期間
募集期間: 2021年9月17日(金) ~ 2021年12月24日(火)
実施期間: 2021年10月25日(月) ~ 2022年1月18日(火)
※上記期間のうち任意の担当授業1コマ(複数回利用も可能です)

申込方法
<https://forms.gle/8hs7ZeLUZMnfk4a9>

※守り手保護状況によりご参観に出来ない場合がございますのでご了承ください。

お問い合わせ:
法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター (事務局: 学務部教育支援課)
TEL: 03-3264-9040 E-mail: kyokaku@hosei.ac.jp

7 学習サポートユニットとの連携(L ステゼミ)

【Lステゼミ】

「レポート作成の“基本の基本”を学ぼう！」

7月9日(金) 13:00-14:00 Zoom開催

内容
このLステゼミでは、主に初めてレポートを作成する1年生を対象に、レポート作成におけるルールや注意点といった基本を学びます。質疑応答のパートでは、レポート作成時における日頃の疑問にもお答えします。

お申込みはこちら
QRコードからアクセスの上
必要事項を入力して下さい。
※申込者に各自ZOOMURLをお送りします。

Lステゼミとは…
教員などが講師となり、専任のみならず行方サポートゼミです。授業・教育・専門と連携は多岐にわたります。不定期で開催しています。学生力として期待される「知識・理解」を深める事を主目的として、気軽に学びの機会を提供しています。

社会学部 准教授 多田 和実

【お問い合わせ】学習ステーション(橋上図書棟2階)
TEL: 03-3264-9072 | l-station-jmu@hosei.ac.jp



【Lステゼミ】

コーチングについて学びましょう ：スポーツの視点から

11月10日(水) 13:00-14:20 Zoom開催

内容
他者が抱えているタスクに対し、少しでもモチベーションをもって気持ちよく取り組んでもらうために、われわれは何ができるでしょうか。それを「スポーツにおけるコーチング」を取り所として考えてみましょう。

お申込みはこちら
QRコードからアクセスの上
必要事項を入力して下さい。
※申込者に各自ZOOMURLをお送りします。

Lステゼミとは…
教員などが講師となり、行方サポートゼミです。授業・教育・専門と連携は多岐にわたります。不定期で開催しています。学生力として期待される「知識・理解」を深める事を主目的として、気軽に学びの機会を提供しています。

経済学部 准教授 山田 快

【お問い合わせ】学習ステーション(橋上図書棟2階)
TEL: 03-3264-9072 | l-station-jmu@hosei.ac.jp

「傾聴」のアクティビティを体験してみよう

1. それぞれ①話し手・②聞き手・③観察者兼タイムキーパーを決めます(後ほどローテーションします)。
2. 話し手は「最近、嬉しかったこと」を話します。
3. 聞き手は、携帯電話を見ながら視線を合わせないようにして、話の所々に「あ、そう」「でもね」といった不同意・否定的な発言や仕事をします。
4. 観察者はタイムキープをしつつ、そこで起こっている現象を観察して、両者の表情や気持ち、空気の変化などを読み取ってください。
5. 時間は90秒です。

8 『学習支援ハンドブック』

(抜粋)



INDEX デジタル版はこちら
<https://hosei-hondana.actbookone.com/>

- 02 法政大学へようこそ WELCOME TO HOSEI UNIVERSITY
02 法政大学へようこそ 08 校歌を知ろう！
- 10 大学での学びとは GETTING STARTED
11 時間制をつくる 13 法政ポータルサイト(Hoppi)について
20 授業受講のルールとマナー
22 学習ポートフォリオのすすめ 24 ノートの取り方
26 メールのマナー 27 ディスカッション
- 28 成績評価・授業改善 GRADE AND COURSE EVALUATION
28 成績評価を受ける 32 授業改善アンケート
- 34 レポートの書き方 HOW TO WRITE PAPERS
34 レポートを書く 35 レポート課題をゆめしよう！
36 アイデアのまとめ方 ーレポート執筆の下準備ー
38 レポートの構成 39 添削するには？
40 アカデミックライティングの基礎 ーバラグラフとはー
43 先行研究の適切な引用と区別 45 接続表現を適切に使って論理的に文章を組み立てよう！
46 レポート提出前のチェックポイント 47 レポートの文庫術 49 校正記号
50 レポート書式の別 52 英文レポート書式の別 54 キーボードに慣れよう！
- 56 プレゼンテーション技法 PRESENTATION SKILLS
56 プレゼンテーション基礎 ー準備ー 58 プレゼンテーション基礎 ー資料ー
60 プレゼンテーション本番 ー心得ー
- 62 文献や情報の集め方 INFORMATION GATHERING
63 図書館を使いこなそう！
66 インターネットでの情報収集 ー信頼できるサイトの見分け方ー
- 70 その他 OTHER TOPICS
70 学生生活支援Q&A
73 あなたも挑戦してみよう！法政大学のコンテスト・奨励制度
- 74 法政大学お宝コレクション SPECIAL HOSEI UNIVERSITY COLLECTIONS
74 法政大学図書館 76 野上記念法政大学音楽研究所
77 大原社会問題研究所 78 沖縄文化研究所 79 HOSEI ミュージアム

9 2020年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書

(抜粋)



2020年度
「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書
2021年9月

学部 P. 1～P. 16
大学院 P. 17～P.38

発行: 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

学部

1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度より1D(推薦トヨタ)「教育開発・学習支援センター」が主催となりとして、これまでに16年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への多岐な情報を得た新形式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋季学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とすべく大規模な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

2020年度も同様、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言から春学期の大学運営が求められるなかで、新システムでアンケートを実施した場合は、通常授業時と同様の強要測定や運用の確保が困難であることに加え、問い合わせや不具合の解消に備えるなど十分な事務処理体制の確保が困難であることから、本アンケートは実施されませんでした。なお、その代わりに「オンライン授業に関する学生対象アンケート」が実施されました。秋学期は、2020年10月7日(水)～2021年2月10日(水)の期間に実施しました。4期間の学割は2020年10月26日(月)～2020年11月16日(月)にも実施しました。

本学の法学部(市谷キャンパス)、文学部(市谷キャンパス)、経営学部(市谷キャンパス)、国際化学部(市谷キャンパス)、人間福祉学部(市谷キャンパス)、キャリアデザイン学部(市谷キャンパス)、デザイン学部(市谷キャンパス)、グローバル教養学部(市谷キャンパス)、経済学部(多摩キャンパス)、社会学部(多摩キャンパス)、法政看護学部(多摩キャンパス)、スポーツ健康学部(多摩キャンパス)、情報科学部(小金井キャンパス)、理工学部(小金井キャンパス)、生命科学部(小金井キャンパス)の15学部が参加され、さらに同じ学割期間として通信教育学部(法学部・文学部・経営学部からの参加)が加わります。

2020年度秋学期の授業評価アンケート対象科目数は5,107科目でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は4,537科目(89%)であり、結果として10%の回答率(回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率)を得るアンケートを改善することができました。また通信教育課程のアンケート対象科目数は191科目、そのうち、アンケートに回答があった科目数は162科目(85%)でした。なお回答率すべてのアンケートデータは年末に実施として収録しています。

本アンケートの対象は本学学部で履修する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など可能な理由から2020年度秋学期の授業評価では1,178科目(全体の19%)のアンケートを実施しました。授業科目を科目別で見ると、算術では162科目(算術全体の7%)、算数では634科目(算術全体の40%)、数学では185科目(算術全体の11%)、物理では41科目(算術全体の2%)、英語では15科目(算術全体の1%)であり、少人数で授業科目数が多い科目や研究がメインとなる科目が多くなります。これらの授業科目では、通常のアンケートを行うような個別対応が対応ができません。

本年度アンケートを実施した際には、教職員ならぬに各関係者のみなさまの協力なしでは成し得ないことであり、授業改善アンケートを全学教育開発・学習支援センターの活動への「理解」について心から感謝を申し上げます。また、本アンケート結果の集計と分析を実施した本報告書が、関係者各位の本来における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸いです。

1

2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の選択回答を求めた問1～問4の単純集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

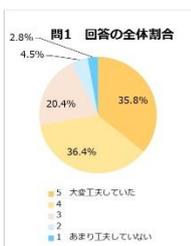
教育開発・学習支援センターの定たる目的である「教育および学びの質の向上」ですが、教職員側と学生側とはその捉えるポイントに少しギャップがあります。そこで、問1～問3に関わる「教員の教授」と問4に関わる「学生の授業」に分け、表裏裏面もしくは学生側から見える本学授業の現状を把握しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の授業」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単純集計は学年別、科目種別別、履修形態別、担当教員別、科目数別別に集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

3. 教員の教授に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めを5段階評価として尋ねています。問1は「この授業では、確切的な工夫がなされていない(1)」と1、それに対し、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、概説、授業方法、動画、スクリーンを見せたり、補足、質疑応答的な学びへの促しなど、(5)段階評価まで回答ください。」を記載しています。全体の回答割合を見ると、大抵下側で「1」と「2」を合わせた72.2%の学生が授業に満足がなかったと受け止めていました。一方、あまり工夫していない「1」と「2」を合わせた73%の学生は授業の工夫を認めていました。平均値は3.98、中央値は4であるので、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。



2

(2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択法から尋ねています。問1は「この授業に関して、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との議論や質疑も含む。」を記載しています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は59.4%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は11.9%でした。大学設置基準は、学生が予習・復習に相当の時間をかけることを前掲に明確な目標を定めて授業を行うように規定しています。また、2012年8月に中央教育審議会が公表したいわゆる「質的保証答申」では、「事前準備・事後復習」事後復習を通して主体的な学習に要する学習時間の確保が不可欠」との要請が示されており、2014年12月に公表された答申でも、アメリカの大学生に対して日本の大学生の学習時間が短いことが指摘されています。それらも踏まえると、今後、学生の授業外学習の確保は更に留意していくことが重要になると思われます。

2019年度の全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は32.0%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は38.1%でした。2019年度と2020年度秋学期を比較すると、授業外学習の時間は大體に増加したことになります。この結果は、コロナ禍のオンライン授業において、学生の学習の時間確保も、授業外学習の時間を多く必要としたことと関係していると思われる。



(3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。」「5段階評価で回答ください」として講義内容の理解度を尋ねています。概ね理解できた学生に占める「5」「4」の割合は68.9%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は7.4%でした。平均値は3.88、中央値は4であるので、全体的には理解できたと思われたいこととなります。

3

問4. この授業を履修してよかったと思えますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答総数	5	4	3	2	1	
<総計>	4,690	8,190	38,431	15,959	12,248	7,422	1,761	1,041	
<学年別>									
1年	-	3,786	20,537	8,053	6,886	4,098	956	544	
2年	-	2,304	10,732	4,304	3,373	2,204	532	319	
3年	-	1,433	5,652	2,681	1,630	959	235	147	
4年	-	652	1,492	909	355	159	38	31	
その他	-	15	18	12	4	2	0	0	
<科目種別別>									
講義(合計)	2,293	-	25,430	10,367	8,239	5,024	1,145	655	
25人未満	533	-	1,616	831	459	217	69	40	
25-49人	622	-	3,817	1,744	1,106	685	174	108	
50-99人	596	-	7,852	3,009	2,671	1,626	361	185	
100-199人	383	-	7,485	2,931	2,447	1,555	344	208	
200-299人	96	-	2,544	1,039	849	499	107	50	
300人以上	63	-	2,116	813	707	442	90	64	
演習	699	-	3,315	1,718	913	492	132	60	
講学	1,437	-	7,855	3,108	2,541	1,529	403	274	
実習	137	-	1,256	552	403	241	42	18	
実証	88	-	506	159	146	131	38	32	
卒業	36	-	69	55	6	5	1	2	
<領域別別>									
必修	1,797	-	13,153	4,983	4,378	2,740	665	287	
その他	2,893	-	25,278	10,976	7,870	4,682	1,096	654	
<担当教員別>									
専任	1,966	-	18,925	8,054	6,094	3,582	780	415	
兼任	2,724	-	19,506	7,905	6,154	3,840	981	626	
<科目設置主体別>									
市ヶ谷学部	1,138	-	8,740	4,289	2,535	1,349	372	195	
市ヶ谷教養	1,173	-	8,480	3,690	2,699	1,514	364	213	
小金井学部	736	-	8,606	2,926	3,085	1,978	412	205	
小金井教養	293	-	2,576	834	874	671	119	78	
多摩学部	1,156	-	9,098	3,592	2,855	1,843	471	337	
通信教育	163	-	817	542	175	65	22	13	
その他	31	-	114	86	25	2	1	0	

大学院

1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター(現教育開発・学習支援センター)が主催する形として、これまでに16年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への報告書を添付した紙形式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大規模な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

2020年度春学期は、2020年7月22日(水)～2020年8月7日(金)の期間に実施しました。秋学期は、2020年12月7日(月)～2021年2月10日(水)の期間に実施しました。4分割の学部は2020年10月26日(月)～2020年11月16日(月)にも実施しました。

本学の大学院は、人文科学研究科(市ヶ谷キャンパス)、国際文化研究科(市ヶ谷キャンパス)、経済学研究科(市ヶ谷・多摩キャンパス)、法学研究科(市ヶ谷キャンパス)、政治学研究科(市ヶ谷キャンパス)、社会学研究科(市ヶ谷・多摩キャンパス)、経営学研究科(市ヶ谷キャンパス)、公共政策研究科(市ヶ谷キャンパス)、人間社会研究科(多摩キャンパス)、情報科学研究科(小金井キャンパス)、デザイン工学研究科(市ヶ谷キャンパス)、政策創造研究科(市ヶ谷キャンパス)、キャリアデザイン研究科(市ヶ谷キャンパス)、理工学研究科(小金井キャンパス)、スポーツ健康科学研究科(多摩キャンパス)の15研究科と3インスティテュート(国際日本学インスティテュート、連携社会学インスティテュート、総合理工学インスティテュート)から構成され、さらに大学院の専門職位候補として専門職大学院(法務大学院、経営大学院)が加わります。

2020年度春学期は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を踏まえ前年秋学期の調査を求められるなかで、新システムでアンケートを実施した。通常授業時と同様の効果測定と適用の実現が困難であることに加え、限定的な実施や不測の事態に備えるなど十分な事務処理体制の確保が困難であったことから、本アンケートは専門職学位課程の科目についてのみ対象としました。そのため2020年度のアンケート対象の全科目数は2,043科目(春学期171科目、秋学期1,872科目)でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は509科目(春学期98科目、秋学期411科目)であり、結果として春学期は回答率24.5%、秋学期は24.7%の回答率(回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率)、専門職学位課程は春学期28.8%、秋学期36.3%の回答率を誇るアンケートを数得することができました。すべてのアンケートデータは春学期・秋学期、学期別に集計して収録しています。

本アンケートの対象は本学学部・大学院で履修する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態などの理由から博士後期課程には行っていません。また、そのため2020年度は1,389科目のアンケートを実施しました。授業科目を科目別で見ると、講義では427科目(講義全体の45%)、演習では647科目(演習全体の83%)、実証では180科目(実証全体の99%)であり、ゼミや研究がメインとなる科目が多く見られます。

本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位のホウにおける「教育および学部の質の向上」の一助になれば幸いです。

2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の満足回答を求めた問1～問4の半端集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

教育開発・学習支援センターの定める目的「教育および学びの質の向上」ですが、教職員と学生とはその認知のポイントに少しギャップがあります。そこで、問1～問3に関する「教員の教授」と問4に関する「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見ると本校授業の現状を把握しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

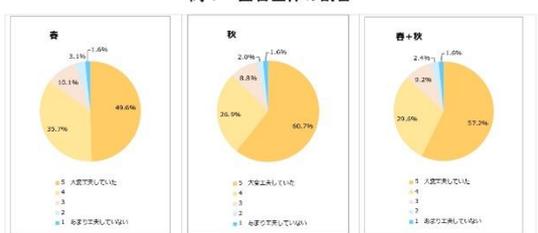
また、問1～問4の半端集計は学年別、受講教員種別、担当教員別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

3. 教員の教授に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めを5段階評価として尋ねています。問1は「この授業では、積極的な工夫がされていましたか」とし、それに続き、回答がある程度のイメージをもってもらうために「例えば、態度、授業方法、授業進め、スタイルの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)」を添えています。全体の回答割合(春+秋)を見ると、大変工夫していた[5]と[4]を合わせた86.8%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない[1]と[2]を合わせた4.0%の学生は授業の工夫を求めています。

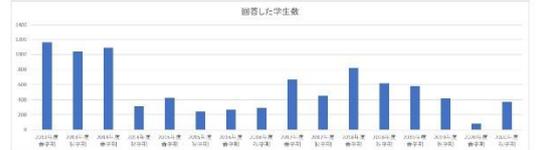
問1 回答全体の割合



注) 春学期は法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科のみ実施。

6. アンケート回答傾向の経時推移

回答した学生数の過去5年間における推移を見ると、経年推移で授業内実施を行っていた2014年度春学期までは約1,000名でした。アンケートをweb化し、実施時期を期首内任意で行っていた2016年度秋学期までは約300名に減りました。2017年度春学期から、web化にフィットした新しいアンケート内容に刷新するとともに授業内実施となりました。その結果、回答した学生数は増加し2018年度は1,434名となりましたが、2020年度春学期は法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科のみ実施したため、前年度と比較して回答者数が大きく減少しましたが、秋学期に回答者数は回復しました。



各実施時期におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、2017年度春学期からの経時的変化を捉えました。授業の工夫を尋ねた問1は、2020年度春学期の平均値4.29が秋学期は4.43と上がりました。授業外学習時間を尋ねた問2は、2020年度春学期の平均値3.59が秋学期でもほぼ同値3.60となりました。履修内容の理解度を尋ねた問3は、2020年度春学期の平均値4.19が秋学期でもほぼ同値4.29となりました。授業の満足度を尋ねた問4は、2020年度春学期の平均値4.42が秋学期でもほぼ同値4.55となりました。問2については、昨年度から相対傾向にあることがわかります。

	2017年度	2017年度	2018年度	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2020年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
回答した学生数	668	451	818	616	580	414	78	368
問1	4.38	4.50	4.36	4.45	4.36	4.49	4.29	4.43
問2	3.11	3.25	3.29	3.37	3.23	3.35	3.59	3.60
問3	4.17	4.34	4.18	4.25	4.19	4.35	4.19	4.29
問4	4.47	4.60	4.45	4.52	4.46	4.55	4.42	4.55

7. おわりに

教員の教授を中心とした分析から、研究科の学生は(1)本学教員の教授に対する工夫が観られる傾向をもち、(2)授業外学習時間は概ね週1時間以上であり、(3)観念的理解だと感じていることがわかりました。また、理解度と教授の工夫には強い正の相関関係、理解度と授業外時間には弱い相関関係を確認できました。理解度と教授の工夫の正の相関関係の因果を考慮すれば、教授の工夫が理解度に影響を及ぼしていると考えられます。本年度は、

10 2021年度春学期授業形態に関する学生対象アンケート集計結果報告書

(抜粋) (※秋学期は非実施)

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行が厳格として終息しない中、当該大学では引き続き一部の対面授業を再開しながらオンライン授業を実施してきました。このような状況下において、オンライン授業の印象や直近した自職、オンライン授業や対面授業を占める授業形態の満足度・理解度・意欲などを把握し、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的として、教育開発支援機構教育開発・学習支援センターでは「授業形態に関する学生対象アンケート」を実施しました。アンケート実施期間は2021年7月19日(月)～7月31日(金)、アンケート対象者は全学諸生・大学院生(通学課程の科目を履修している満得教育生を含む)、調査方法はGoogleフォームを用いました。回答数は3,516名(日本題3488名、英語28名/回収率9.0%)となりました。

2. 回答者の属性

2.1 回答者の学年

回答者の学年別構成比は、次のようになります。1年生が33.5%、2年生が26.2%、3年生が18.4%、4年生が11.8%、大学院生が10.1%でした。下級生の回答割合が高い傾向にあります。

学年	構成比
1年生	33.5%
2年生	26.2%
3年生	18.4%
4年生	11.8%
大学院生	10.1%
合計	100.0%

2.2 回答者の所属

所属別の回答数は、次の表 2.2 (学部) および表 2.3 (大学院、その他) となりました。

所属	回答数
法学部	367人
文学部	373人
経済学部	412人
社会学部	361人

経営学部	326人
国際文化学部	155人
人間福祉学部	154人
現代福祉学部	130人
情報科学部	128人
キャリアデザイン学部	101人
デザイン工学部	142人
理工学部	239人
生命科学部	115人
グローバル教育学部	46人
スポーツ健康学部	93人
合計	3,512人

表 2.3 回答者の所属 (大学院、その他)

所属	回答数
人文科学研究所	82人
国際文化研究所	5人人
経済学研究所	14人
法学研究所	6人
政治学研究所	5人
社会学研究所	8人
経営学研究所	16人
人間社会研究所	11人
情報科学研究所	11人
教育創造研究所	49人
デザイン工学研究所	24人
キャリアデザイン研究所	12人
公共政策研究所	38人
理工学研究所	29人
スポーツ健康学研究所	5人
法務研究所	12人
イノベーション研究科	29人
その他	8人
合計	364人

1

6. 過去のアンケートを用いた比較

6.1 回答者の属性

2021年度の春学期に実施された「授業形態に関する学生対象アンケート」は、2020年度の秋学期に実施された「オンライン授業に関する学生対象アンケート」と同一の質問をまとめているため、それらについてとりわけ入学年度に注目した比較を行いました。

表 6.1 は、アンケートの実施年度別に入学年度の構成比を集計したものととなります。ただし、「2021年度の2年生は2020年度入学生」のような一対一の関係をしているため、留学者などは考慮できていません。また、これ以降の比較では大学院生を除いています。

入学年度	構成比	
	2020年度(秋学期)	2021年度(春学期)
2017年度入学生	9.2%	
2018年度入学生	17.0%	13.2%
2019年度入学生	29.6%	20.3%
2020年度入学生	44.2%	29.1%
2021年度入学生		37.2%
合計	100.0%	100.0%

6.2 オンライン授業に関する印象

6.2.1 満足度

2020年度のアンケートにおいてもオンライン授業の印象を尋ねているため、2021年度との時系列比較を把握します。ただしアンケートは2020年度の秋学期に実施されましたが、「【春学期】を振り返って、【春学期】のオンライン授業における、以下の各項目に対するあなたの印象はどうでしたか?」のように、春学期の印象を振り返って尋ねている点に注意が必要となります。また「そう思う」から「そう思わない」まで5件法の評価について、肯定的回答の割合(「そう思う」「ややそう思う」と回答された割合)を2020年度が黒色で2021年度は赤色と表示しました。

図 6.1 より、2020年度における春学期の印象と2021年度の春学期では15ポイントほど肯定的回答が増加しました。そして特に満足度の増加が大きかった(20ポイント以上)ものは「無題に対するフィードバックがあった」、「配布資料・教材がわかりやすかった」、「授業の到達目標や課題の目的に関する説明があった」であり、これらを評価している傾向が明らかとなりました。

7. 比較結果の要約

これまでの比較結果をより詳しくお話しします。

- 各授業形態の意見について

まず、オンライン授業に関する教育の質は高まっていますが、「オンライン授業でリアルタイム感(臨場感)」と「対面授業」では、「受講していない」学生を除いて比較すると満足度・理解度・意欲に差は見られませんでした。一方、「オンデマンド授業(資料型)」は「受講していない」学生を除いて比較すると理解度や意欲が低くなりました。そして、「オンライン授業に関する意見」と「オンライン授業の経験」の相関関係を確認すると、「音声環境」「映像環境」「通信の容量・速度」や「チャット」等の授業の質・スピード」などオンラインの授業環境よりも「学習意欲の維持」「学習ペースの管理」「心の健康」の経験といった側面の方がオンライン授業の満足度・理解度・意欲との負の相関は大きいことが明らかとなりました。
- オンライン授業と対面授業の希望割合について

調査者が30人を超えるような課程では、「すべて(100%)オンライン授業」を求める学生が約1割と3割を占めました。一方で、1年生や2年生が対面授業を希望している傾向は、上述と比較して講師の年齢にかかわらず見られました。
- 2020年度と2021年度のアンケートを比較して

2021年度アンケートについて、2020年度入学生(2年生)は「経験による心身の負担は少なかった」、「無題等に対するフィードバックがあった」、「教員への質問がしやすかった」、「配布資料・教材がわかりやすかった」などオンライン授業に関する肯定的回答が少ないと見られました。一方で、2020年度では2020年度入学生(1年生)において見られました。したがって1年生や2年生などの学年別の違いではあるものの傾向が明らかとなり、入学年度別の差異であることが明確です。2021年度入学生よりも2020年度入学生における無題が顕著に増えたと考えられます。

8. 終わりに

新型コロナウイルスの感染症流行をきっかけに、当該大学は対面授業を含めながら2021年度も引き続きオンライン授業を実施してきましたが、その後の向上は喫緊の課題です。教育開発・学習支援センターの目的は、「アカデミック・デベロップメント(ED)を中心に、本学での教育的な教育改善と学習を効果的に支援すること」であり、オンライン授業の質の向上についても、年間全ポートを回ってまいります。今後とも、教育開発・学習支援センターの活動へのご協力をどうぞお願い申し上げます。

お問い合わせ： 当該大学教育開発支援機構教育開発・学習支援センター <http://www.hokkaido-u.ac.jp>
 事務局 学習開発支援課 Tel: 011-833-2344-6640 E-mail: kyokai@hokkai.ac.jp

20